東京シンフォニエッタ

第55回 定期演奏会

Caterina Di Cecca:
“La Serita ricurva” 2017
入野賞受賞作品（日本初演）

Jean - Patrick Besingrand:
“Konohana” 2017
入野賞応募作品（日本初演）

久保哲朗：
“かぎろひうつろふII” 2017／2024
入野賞応募作品（世界初演）

入野義朗：
七つの楽器のための
室内協奏曲 1951

追悼・入野禮子

その業績を顕彰する

TOKYO SINFONIETTA

2024.
7.5
[FRI]

19:00開演
18:30開場

東京文化会館
小ホール

全席自由（税込）
一般 ¥4,000
学生 ¥2,000

主催 一般社団法人 東京シンフォニエッタ

助成 芸術文化振興基金
公益財団法人 三菱UFJ信託芸術文化財団
公益財団法人 ロームミュージック ファンデーション

お問い合わせ マネジメント
（株）AMATI 03-3560-3010
東京都港区赤坂1-14-5-S103
https://www.amati-tokyo.com

AMATI

音楽監督
板倉康明

フルート
斎藤和志
斎藤光晴

オーボエ
梅枝理恵
辻　功
渡辺康之

クラリネット
川越あさみ
佐藤和歌子
西澤春代

ファゴット
河府有紀
長 哲也

ホルン
有馬純晴
岸上 穣
中島大之

トランペット
坂井俊博
高橋 敦

トロンボーン
西岡 基

サックス
小沼理恵

テューバ
渡辺 功

パーカッション
石崎陽子
松倉利之
和田光世

ピアノ
藤原亜美

ハープ
木村茉莉

ヴァイオリン
梅原真希子
海和伸子
山本千鶴
吉成とも子

ヴィオラ
百武由紀
守山 ひかる
吉田 篤

チェロ
宇田川元子
高麗正史
花崎 薫

コントラバス
那須野直裕
長谷川信久
吉田 秀

エレクトロニクス
有馬純寿

アシスタント
西山夏生

事務局
多田逸左久

入野禮子と義朗

惜しくも一昨年帰天された、故、入野禮子氏が我が国の現代音楽界に「個人として」なされた功績に感謝し、讃えるためにこの演奏会は企画された。夫である日本の重要な作曲家である、入野義朗（1921-1980）没後、「入野賞」を創設され、世界各地から隔年で室内楽とオーケストラ作品のコンクールが行われている。個人の名を冠した作曲コンクールは他にも挙げられるものの、全くの個人で運営されているものは例を見ない。私たち東京シンフォニエッタは、2004年の第25回入野賞より、それまでのオーケストラ作品から室内オーケストラ作品募集に切り替わったのを契機に、湯浅譲二先生のご依頼によりお手伝いさせていただいている。この世界的にも稀な作曲コンクールを運営するのみではなく、ご自身の献身的な働きで、受賞作の演奏をなされていた事実を音楽界に周知してもらい、同時にその功績の大きさをも知らせ、今後の「入野賞」と日本の作曲界が益々発展する契機となるべく本公演は企画された。

東京シンフォニエッタ音楽監督
板倉康明

TOKYO SINFONIETTA

2024年7月5日［金］
19：00開演（18：30開場）
東京文化会館 小ホール

全席自由（税込）
一般 ￥4,000　学生 ￥2,000

◎チケット予約

東京文化会館チケットサービス
03-5685-0650

イープラス……https://eplus.jp（PC＆携帯）
チケットぴあ……https://t.pia.jp（PC＆携帯）
Pコード［267-951］
ローソンチケット…https://l-tike.com/（PC＆携帯）
Lコード［34749］

次のことをあらかじめご承知の上、チケットをお買い求め下さい。
❶やむを得ない事情により、曲目等が変更になる場合がございます。公演中止を除き、お買い求めいただきましたチケットのキャンセル・変更等はできません。❷いかなる場合もチケットの再発行はできません。紛失等には十分ご注意下さい。❸演奏中は入場できません。❹未就学児の同伴はご遠慮下さい。また、就学児以上のお子様もご入場には1人1枚のチケットが必要です。❺場内での写真撮影・録音・録画・携帯電話等の使用は固くお断りいたします。❻ネットオークション等によるチケットの転売は、トラブルの原因になりますのでお断りいたします。❼他のお客様のご迷惑となる場合、主催者の判断でご退場いただく場合がございます。

入野禮子

1936年、東京に生まれる。父の仕事の関係で幼少期を上海で過ごし、ピアノを習い始める。東洋英和女学院高等部を卒業後、桐朋学園短期大学作曲科に入学し作曲を入野義朗、別宮貞雄に師事する。1957年に第1期生として卒業し、卒業演奏会では混声合唱「クリマの死」が東京混声合唱団によって演奏された。卒業後、桐朋学園短期大学等で教鞭を執りながら作曲活動を続け、桐朋学園大学音楽学部開設時に作曲科に編入学。1964年に同学部第1期生として再卒業する。ピアノの他にサクソフォン、長唄三味線、箏などを演奏。1962年に作曲家入野義朗と結婚。桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部、青山学院大学、高崎芸術短期大学、東京音楽大学附属音楽教室にて旧姓、髙橋冽子として教職に従事する。1981年、湯浅譲二、松平頼暁、石井眞木の協力のもと故入野義朗の功績をたたえ、入野賞を設立。入野賞基金代表に就任する。以後、NPO法人JML音楽研究所理事長、アジア作曲家連盟（ACL）名誉会員、アジア作曲家連盟入野義朗記念賞審査委員等を務める。また、日独青少年交流コンサートを主催し、日本ウラジオストク協会副会長、ロシア音楽家協会運営委員なども歴任。日本とドイツ、ロシア、インド、アジア各国との国際文化交流に尽力した。2022年10月29日未明、調布市の多摩川病院で逝去。享年86歳

カテリーナ・ディ・セッカ

カテリーナ・ディ・セッカ（Caterina Di Cecca）は、ローマを中心に活躍しているイタリアの作曲家。彼女の作品は、トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団（仏）、トスカーナ管弦楽団（伊）、グラウビュンデン室内フィルハーモニ（スイス）、ノイ・ヴォーカルゾリステン（独）、バーミンガム現代音楽グループ（英）、アンサンブル・モザイク（独）など多くの演奏団体がプログラムに取り上げており、ヨーロッパ各国はもとより米国、メキシコ、フィリピンなど世界各地で演奏されています。また'Unamimes!'作曲コンクール（仏）、'SIAE Classici di Oggi 2018/2019'、若手作曲家フォラム（ベルギー）、フランコ・ドナトーニ国際若手作曲家会議（伊）、ブカレスト/ジョルジェ・エネスク国際作曲コンクールなど40を越える国際作曲コンクールに入選しているほか、オールドバラ音楽祭（英）、ヴェネツィア・ビエンナーレ音楽祭（伊）、アンサンブル・アルス・ノーヴァ（仏）、ディヴェルティメント・アンサンブル（伊）、ミラノ国際博覧会（2015）などからの委嘱も受けています。2015年にはスピラノ・バンナ芸術財団（伊）に、2022年にはミズーリ大学（米）で開催されたミズー国際作曲家フェスティバルに招待作曲家として招かれました。

ジャン＝パトリック・ブザングラン

1985年生まれ。米ワシントンとニューヨークを拠点に活動す るフランス人作曲家。幼少期よりロックやヘビーメタルを演奏している彼の作品は、音色的な追求と、対照的に進化する音の風景を表現することを試みている。その作品はフランス国立ボルドーアキテーヌ管弦楽団、Court-Circuit、Dal Niente、Les Percussions de Strasbourg等により演奏され多数の受賞歴を誇る。世界各地の音楽祭で数多く取りあげられている。ボルドー大学で音楽学の修士号を取得後、ボルドー音楽院でジャン=ルイ・アゴベ氏に師事。ディプロマ取得後、米カーネギーメロン大学でレオナルド・バラダに師事、作曲の Advanced Certificateを取得後CUNY大学院でジェイソン・エカードの下、博士号を取 得。Tesselat作曲集団の共同創設者・共同芸術監督。楽譜はArtchipelとBabel Scoresより出版されている。https://jeanpatrickbesingrand.com/

久保哲朗

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、同大学を経て同大学院作曲専攻修了。文化庁新進芸術家海外研修制度研修員としてイタリアのミラノ音楽院、キジアーナ音楽院にて研鑽を積む。第85回日本音楽コンクール第2位、第86回日本音楽コンクール第1位及び三善賞受賞、Premio del Conservatorio di Musica “G. Verdi”（イタリア）第2位その作品はこれまでにEnsemble REAM、CONTAINER ENSEMBLE、Quartetto Prometeo、東京交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、藝大フィルハーモニー管弦楽団、Zsolt Nagy、Jean-Guihen Queyras等に演奏されている。これまでに作曲を室谷章、吉本隆行、西岡龍彦、川井學、小鍛冶邦隆、Gabriele Manca、Salvatore Sciarrino、Riccardo Piacentiniの各氏に師事。現在洗足学園音楽大学、東京音楽大学非常勤講師。

入野義朗

1921年、ウラジオストクに生まれる。東京帝国大学（現東京大学）在学中に作曲を諸井三郎に師事。第二次世界大戦後、柴田南雄の主唱により発足した「新声会」に参加し、ベトナムから帰国した戸田邦雄が持ち帰ったルネ・レイボヴィッツ著「シェーンベルクとその楽派」を基に十二音作曲技法を研究。1951年には日本で初めてとなる十二音技法による音楽、「7つの楽器のための室内協奏曲」を作曲。1956年には黛敏郎等と現代音楽祭を企画し、翌年20世紀音楽研究所を設立。1967年には諸井誠等と日独現代音楽祭を創設し、海外の現代音楽を日本の音楽界に紹介することに尽力した。また1973年から1975年にかけて石井眞木と共にTOKKアンサンブルを結成し、日本の現代音楽を欧米に紹介。1973年にはアジア作曲家連盟（ACL）の設立に参加し、1976年からはパンムジーク・フェスティバル東京を主催。国内外で現代音楽振興に大きく貢献した。音楽教育分野でも戦後間も無く「子供のための音楽教室」で指導にあたり、後に桐朋学園音楽科設立に参画。桐朋学園大学音楽学部教授や理事を歴任。桐朋学園音楽学部を中心に後進の指導にあたり日本の音楽界の発展に寄与した。多くの邦楽のための作品を含め100曲余りの作品を残し、尾高賞、毎日音楽賞、イタリア賞、ザルツブルク・テレビ・オペラ賞等数々の賞を受賞。1980年没後、従五位勲四等旭日小授章が追授された。

© 関目幸司